

時代を超えて愛される、デザインの良い車。

photo_Futoshi Osako text_Fumio Ogawa
illustration_Daijiro Ohara



country: France
year: 1979-91
seats : 5
size : L4,580×W1,720×H1,450mm
price: approx.1,200,000 yen

良き時代のフランスが生み出した、温かみのあるセダン。

無二のクルマなのである。

《505》は典型的なセダンのカタチをしていながら、決して凡庸ではない。乗る人を幸福な気分にしてくれる温かみを持った、唯一無二のクルマなのである。

個性となっているのだ。広い室内と、座り心地のいい大きなレザーシートが備わるのも魅力。走らせると、路面の凹凸をうまく吸収する足回りの設定ゆえ、ふんわりとした動きをする。これも他のクルマにない長所だ。

《505》におけるデザインの特徴はというと、吊り目のヘッドランプが目玉だが、それだけではない。キャビンとボディのバランスや、トランクの長さなどプロポーションに細心の注意が払われている。均整の良さそのものが強い個性となっているのだ。

多

多くの人が最初に挿くクルマの形はセダンであることが多い。エンジンルームに人が乗るキャビン、そして荷物を入れるトランク。クルマの基本的な構造だ。

普遍的な形だが、現在のフランス車にはハッチバックとミニバンばかりでセダンがない。90年代までこの国で良いセダンが作られていた事実を考えると意外だ。その「良いセダン」こそ、今紹介する《フジョイ505》である。

このクルマは服飾でたとえたら、モードではなくトラッドさに通じる魅力を持っている。素材が良く、裁断と縫製がうまく、着心地がいい。そして何より、スタンダードであるからこそ、人を飽きさせず、それですべてに新しい発見がある。見ても乗っても、そんな表現がしっくりくる。



1 取材車はリアスポイラーなどでスポーティな雰囲気を持った1984年登場のGTI。2 操作類を縦に並べたダッシュボード。小銭入れと灰皿がスペースを占める。3 広々とした後席。左右席間にはアームレストが設けられている。4 “吊り目”と表現されるヘッドランプは60年代から《ブジョー》のスタイリングを担当した《ビニンファリーナ》のアイデア。

Peugeot 505

●ブジョー505